

# 平成30年度 学校評価報告書

対象期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

学校法人 センチュリー・カレッジ  
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー

# I. 平成30年度 学校関係者委員会 開催記録・議事録

## 1. 日時及び場所：

- (1) 日時：平成30年7月3日（火） 18:30～20:30
- (2) 場所：専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 3階 第3教室

## 2. 出席者

### (1) 学校関係者評価委員

- 松崎 充意（一般財団法人石川県予防医学協会 理事長）  
竹内 郁登（医療法人社団浅ノ川 千木病院 リハビリテーション部長）  
長谷田 敦志（公立南砺中央病院 リハビリテーション室主任）  
横川 茉美（医療法人社団博友会 金沢西病院 作業療法士）

### (2) 本校教職員（オブザーバー）

- 加藤 謙一（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長）  
山本 達也（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 経理課 課長）  
狩山 信生（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長）  
種本 美雪（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 副学科長）

## 3. 欠席者

- 黒田 智利（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 事務局長）  
井上 良（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長）

[ 敬称略 ]

## 4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 学校評価の一部見直しについて
- (4) 平成29年度 自己点検・評価 報告
- (5) 各委員の平成29年度活動報告と平成30年度重点目標および取組み
- (6) 財務状況 報告
- (7) 閉会

## 5. 配布資料

- |                                   |            |
|-----------------------------------|------------|
| (1) 平成29年度 学校評価（平成29年度自己点検・評価結果表） | 評価シート※事前送付 |
| (2) 学校基礎情報                        | 資料 1 ※事前送付 |
| (3) 組織図                           | 資料 2       |
| (4) 平成29年度後期 授業評価結果表              | 資料 3       |
| (5) 授業評価フィードバック資料                 | 資料 4       |
| (6) 各委員 平成30年度 重点目標               | 資料 5       |
| (7) 平成30年度教育課程における授業方法の改善取組み      | 資料 6       |
| (8) 平成29年度 決算報告書                  | 資料 7       |

## 6. 議事録

### (1) 校長挨拶（要旨）

平成29年度学校関係者評価について理事会での報告を無事終了し、職業実践専門課程の申請に向けた準備を進めています。授業評価および自己点検・評価の実施体制が整い、実際に改善活動がなされるようになりましたことは委員の皆様のお力添えのお陰様であり、あらためて感謝を申し上げます。

### (2) 学校評価の見直しについて

本校の組織変更に伴い「研修企画委員」を「教務事業部」へ名称変更し、学生研修を企画・実行する部署として再編。

### (3) 平成29年度 自己点検・評価 報告・質疑応答

※各委員の評価・意見については「Ⅱ. 平成29年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書」に記す。

※4. 学修成果、7.学生の受入募集 の実績は小数点第2位四捨五入。

#### 2. 学校運営

副学科長種本) 医療機関では地域社会のニーズ、多職種間での情報交換をおこなうために、どのような取り組みや工夫をされているか教えて頂けますか。

竹内委員) 私の勤務している病院では看護師やケアマネージャーを交えた院内勉強会や研究会などを積極的に行っています。また、地域の多職種を交えた研修会も開催しています。

長谷田委員) 多職種との委員会、ケアマネージャーさんやご家族の方とお話をしたり、地域包括ケアによって病院以外の地域の方々と関わり協調して物事を進める機会があります。そういった取り組みの中で、私は“ジェネラル”が大事だと感じています。医療福祉業界のニーズとしては専門性だけではない総合的な能力を持ち合わせた人材が求められているのではないかと思います。

#### 3. 教育活動について

##### ①教職員の研修（校長 加藤、学科長 狩山）

教員の教授力向上については、今年度は教育関係の大会参加、ワークショップ形式の参加型授業のための教員研修を学内で実施済みであり、後期は授業参観の他、厚生労働省主催の「養成施設教員等講習会」への派遣など、教員研修計画に則り組織的に取り組んでいる。

##### ②授業評価の活用（学科長 狩山）

担当教員（外部講師を含む）に対する授業評価結果のフィードバック方法について説明。

学科長狩山) 外部講師の方にはご自身の振り返りとして活用していただきます。一概に点数の“高い低い”が講義の“良し悪し”ではありません。優しい講師、試験が易しい講師の点数は単純に高くなる傾向があります。一方で卒業生から「厳しい授業を学生のうちに受けられて良かったと働いて気付きました。」という声も多く耳にします。

副学科長種本) 教育の新たな取り組みや授業スタイル、ICT活用、他校のアイデア事例などをご存知でしたら教えて頂けませんか。

竹内委員) 大学では、最近はチュートリアル形式の授業が増えています。学生が主体となって、学生が学生に調べてきたことを説明するというものです。現実的に限られた時間で必要な量と質を教えるには教育者のスキルも必要ですが、学んだことを人に伝えるという事は勉強が楽しいとか、将来の大きな力になると思います。主体的に動くとは育つと思います。

長谷田委員) 卒後教育は、職場でのOJT (On-the-Job Training)を含め、どのように教育し、鍛え、伸ばしていくかという事が非常に重要になります。  
学校では、卒後教育のトレーニングに耐えることのできる鍛錬された人材を育ててほしいと期待します。

#### 4. 学修成果について

##### ① 平成 29 年度の国家試験状況 (学科長 狩山)

###### ・受験者全体 ※

	受験者数	合格率	全国平均
理学療法学科	35 名	91.4%	81.4%
作業療法学科	31 名	90.3%	77.6%
全 体	66 名	90.9%	—

(合格率=平成 29 年度国家試験合格者数/平成 29 年度受験者 ※既卒生を含む)

###### ・平成 29 年度 卒業生

	受験者数	合格率	全国平均
理学療法学科	32 名	93.8%	87.7%
作業療法学科	29 名	89.7%	85.2%
全 体	61 名	91.8%	—

(合格率=平成 29 年度国家試験合格者数/平成 29 年度卒業生数)

国家試験対策： 国家試験合格率は「解剖学」の入学前課題から始まる早期取組みが、一定の結果として実を結んでいると考えている。今年度の国家試験合宿では弱点科目「生理学」に特化した強化対策に取り組む。年内の国家試験合格ライン到達を目標に掲げている。

##### ② 平成 29 年度就職状況 (学科長 狩山)

	県内	県外	就職率
理学療法学科	18 名	14 名	100.0%
作業療法学科	15 名	11 名	100.0%
全 体	33 名	25 名	100.0%

(就職率=就職者数/就職希望者数)

就職対策： 1 年次から就職支援を授業に組み込み、挨拶などの接遇、「伝える力」を育む参加型授業、時事を扱う題材で視野を広く持つ工夫をして取り組んでいる。また、学内就職ガイダンス(採用担当者による企業説明会)を開催し、職業意識を醸成する。今年度は参加依頼の範囲を、昨年度の北陸地域外に加えて、本校の企業連携先である実習施設に拡大する。

#### 5. 学生支援について

- ・今年度より保護者説明会に1・2年を追加し、全学年で開催する。学校情報の提供と希望者の面談を実施し、保護者との連携を深める。また、就職活動と国家試験に向けた意識づけと準備の促しを行う。
- ・生活指導および勉学指導については、学則上の長期休暇中も学校を開放し、自主学習を支援する体制をとっている。

副学長(種本) 学生相談や健康管理、メンタル面のケアについてアドバイスをいただけますか。

松崎委員) 学校では学校医、企業では産業医の先生方が健康管理・相談を担っており、メンタルの関係で必要であれば精神科医・心療内科医などの先生方と連携し対応しています。当協会は産業医として関わっている企業のみではなく、産業医が選任されていない中小の企業から同様の相談があった場合は対応しています。必要な場合はご連絡ください。

竹内委員) 私は産業医でもありますが、同じくメンタル面の専門的な部分は精神科の先生に取り次いでいます。産業医の立場としては、窓口として気軽に相談をいただけるということは有難く思います。

松崎委員) 前回の委員会で“学生は実習で学外の慣れない環境に出ることによって、普段感じにくい心的な負担を感じるようになる”とお話いただいた件について、学校として対策は講じられましたでしょうか。

学科長狩山) 危機管理として、予め不安要素のある学生には毎日学校に連絡をさせ、実習第1週目より教員が実習地を訪問し、フォロー体制を強化しました。その結果、実習指導者も把握していない学生の些細な変化を教員の方でキャッチできました。実習指導者に連絡し早期に対処したことで、その後の実習を難なく終えることができました。

## 6. 教育環境

- ・図書室利用は臨床実習前後での需要が大きい。実習期間中も必要な資料や文献を調べられるように、外部から検索し閲覧ができる電子書籍の導入を検討している。
- ・指定規則改正（平成32年）にあわせ老朽備品の入替を計画的に進める。

横川委員) 実習生を受け入れる側としては、学生がiPadを所持していることは病院でも連絡事項等を周知するためにタブレットを活用していますので効率的で良いことだと思います。看護師さんはタブレットを活用して動画で手技を勉強しています。私もタブレットで患者さんの体験談を読んだり、隙間時間を活用して好きな時に学習ができる所が良いと思います。

今現在、授業ではiPadをどのように使用しているのですか。

校長) 一番多いのは解剖で使っています。アプリケーションを活用し、動画によって筋や骨の動きを学習しています。

松崎委員) 当協会にはマニュアルとして手技や検査等の手順を動画で示したツールがあります。

タブレットを学習以外にも、広報活動で学校独自の動画を作成して幅広く活用していけると良いですね。最近では店舗のホームページにストリートビューを導入している所があって、店内の様子を実際に訪問した時のように見ることができるので、親しみが持てて集客につながるそうです。教室や実習室をストリートビューで閲覧できると楽しいですね。

## 7. 学生の受入募集

### ① 学生受入状況

・平成30年度

	平成30年度 入学者数			平成30年度 学生数			収容定員 充足率
	男	女	計	男	女	計	
理学療法学科	27名	13名	40名	81名	34名	115名	95.8%
作業療法学科	13名	14名	27名	53名	45名	98名	81.7%
計	40名	27名	67名	134名	79名	213名	88.8%

・平成29年度

	平成29年度 入学者数			平成29年度 学生数			収容定員 充足率
	男	女	計	男	女	計	
理学療法学科	30名	10名	40名	73名	39名	112名	97.4%
作業療法学科	19名	15名	34名	53名	52名	105名	91.3%
計	49名	25名	74名	126名	91名	217名	94.3%

### ② 入学前課題

入学前課題は「解剖学Ⅰ」を中心に構成しており、当該科目の再試率が減少していることは一定の効果が認められると判断できる。入学後、学問へスムーズに導入できるよう、より良い課題を提供するために成果の検証を深める。

## 10. 社会貢献

・チャリティーコンサートを開催し、日本障がい者乗馬協会へ約50万円の寄付を行えることになった。

### (4) 各委員会の平成29年度活動報告と平成30年度重点目標および取組み

#### ① 各委員平成30年度重点目標（校長 加藤）

資料5 各委員の重点目標 に沿って今年度の重点施策を説明。

#### ② 平成29年度教育課程編成委員会を受けての改善取組み「伝える力を育む」報告（学科長 狩山）

資料6 教育課程における授業方法の改善取組み に沿って説明。

横川委員) 「伝える力」は、患者さんへの説明やカンファレンスなど、職場で日常的に必要なになりますので良い取組みだと思います。

少人数制の授業風景をイメージするのですが、教員と学生は何人対何人くらいで行うのでしょうか。

学科長狩山) 科目によってイメージが一致する少人数制の科目もあります。

例えば4～5人の小グループにリーダー1人を立てて展開する科目もありますし、教員1人に対して学生30人で行う科目もあります。

参加型授業はワークショップ形式の他にも、学生が先生役になって学生に教え、その講義について学生が評価をする形式の授業もあります。

横川委員) 病院のカンファレンスでは大勢になると発言をしない職員がでます。授業でも1人対30～40人になると積極的に授業に参加しない学生がでてくる懸念があります。

また、全員に狙い通りの学習効果が出ないとか、必要なカリキュラムを消化できないような事態が起きることはないのでしょうか。その点についての対処方法はあるのでしょうか。

- 学科長狩山) 横川先生が懸念されるとおり、大人数になると発言しない学生もでてきます。授業進度、学習内容や知識の到達ラインはしっかりと決めて、教員がディスカッションの途中でレクチャーを挟むような工夫をして、教える側でコントロールをしていきます。
- 竹内委員) 働き蜂や蟻の世界では、ほんの一部に怠けて働かないものがあるそうです。興味深いことに、怠けていたものが働き出すと、今度は働いていたものの中から怠けるものがでてくるそうです。人間も大人数の中では誰かが発言をするので、意見はあっても発言を控えてしまう人がでる傾向があるのかもしれない。
- 長谷田委員) 参加型授業では学生はどんな反応をするのでしょうか。一般的に高校までは講義形式の授業を受けてきて、急な授業スタイルの変更に戸惑う学生はいませんか。先生方はどのような手ごたえを感じておられますか。
- 学科長狩山) 戸惑う学生もいます。参加型授業は普段見えない学生の性格が表れます。参加型授業を通して学生の良いところを褒めることで、信頼関係が以前よりも築きやすくなりましたし、指導で注意やネガティブな事を学生に伝えても関係を良好に保ちやすくなりました。また、弱い部分がある学生には、克服するためのトレーニングを丁寧に個別指導することもできますので、率直に良い手ごたえを感じています。
- 長谷田委員) 意見を全く言えない実習生でも、接しながら共通の話題で丁寧に話をしていくと少しずつ引出すことが出来る場合があります。この取組みによって学生がどのように成長できるか興味深いです。
- 副学科長種本) 1年生は今年4月から参加型授業を何度か繰り返し行っています。先日は役割分担をジャンケンから話し合いで決定する方法に変化したグループ、自ら率先して役を引き受ける学生の姿も見られました。仰るように、中には積極的に参加できない学生も存在しているとは思いますが、少しずつ成長をしている印象を受けています。
- 長谷田委員) 実習施設で周りに友達がいなくても、学内と同じように実習指導者に自分の意見を伝えることができるか、是非ともそういう学生を見てみたいと思います。発言をするトレーニングを行うことで、変われる学生は必ずいると思いますので期待しています。

(5) 財務状況 報告 (経理課 山本)

資料7 平成29年度決算報告書 に沿って財務状況を報告。

(6) その他

- ・学校関係者評価委員の再任依頼  
平成31年3月31日任期満了となりますが、引き続き平成33年3月31日までお引受け頂きたいと再任のお願いを口頭で申し上げた。

以上

記録：橋本尚子

## Ⅱ. 平成29年度 自己点検・評価 及び 学校関係者評価 報告書

対象期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

評 価：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

1. 教育理念・目標					
自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
1-(1)	学校の理念・育成人材像・教育目標は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.5	↘ 3.4	学 校	評価 3.0 ・学校の理念等を教職員一人ひとりに深く浸透させることは大変だと思いますが、分かりやすく且つ時間を掛けて取り組んでいただきたい。教職員がしっかりと理解することではじめて学生が理解してくれると思います。 ・理念を実現するための具体的な方策があると良い様に思います。
1-(2)	医療福祉業界の要望・意見等を踏まえた学校の将来構想を策定しているか	3.0	↗ 3.1	学 校	
1-(3)	学校の理念・育成人材像・教育目標などが学生・保護者等に周知されているか	2.8	↘ 2.4	学 校	
1-(4)	育成人材像・教育目標は、医療福祉業界のニーズに向けて方向づけられているか	2.9	↗ 3.0	学 校	
【課題】			【今後の改善方策】		
1-(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切に定められているが、教職員全員が共通で認識し、理解をしているという点では不十分さを感じる。</li> <li>教育理念は定められているが、育成人材像が明確ではない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「凛とした医療人」という育成人材像を具体的に示してはどうか。</li> <li>標語や目標は常に確認できるように検討してはどうか。</li> </ul>		
1-(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬を使ったリハビリテーション教育を推奨して馬を教材として取り入れているが、教育の内容・意味を保護者にも周知したほうが良いと思う。</li> <li>社会情勢と医療・福祉の現場に関心が薄い学生に対しての働きかけが必要と感ずる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>分かり易く掲載・提示する。(学校案内パンフレット、ホームページ)</li> <li>入学式、保護者説明会、臨床実習指導者会議、オープンキャンパス、学校ガイダンスなどの学校行事の機会に周知を図る。</li> <li>ホームページで案内と取り組みの紹介・説明等がよいと思う。</li> </ul>		
1-(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界のニーズ(要望・意見)を取り入れる機能が不足しているように感じる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程編成会議を活用し、外部関係者との意見交換等を積極的に行う。</li> <li>外部の非常勤講師から講義などで臨床現場のニーズや課題点を提示してもらう。</li> </ul>		

2. 学校運営					
自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
2-(1)	医療福祉分野の職業教育を念頭においた運営方針・事業計画が策定されているか	※2.4	↗ 2.8	学 校	評価 3.0 ・この学校関係者評価委員会の内容を見ると、教職員の皆さんから学校をより良くしようと意識が強く感じられます。
2-(2)	意思決定機能、指示命令系統は組織機能図において明確化されているか	2.2	↗ 2.6	学 校	



2-(3)	前項（意思決定機能、指示命令系統）は有効に機能しているか		→	2.2	学 校	・組織の見直しが行われているのは柔軟な組織を作っていくことに必要と考えます。
2-(4)	就業規則は整備され、教職員が常に確認できるようになっているか	—		2.5	事 務 局	
2-(5)	人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.7	↗	2.8	事 務 局	
2-(6)	学校運営に関する情報公開が適切になされているか	2.4	↗	3.1	自 己 評 価 委 員 会	
2-(7)	組織体制の整備、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8	↘	2.7	事 務 局	
【課 題】			【今後の改善方策】			
2-(2)	・意思決定機能、指示命令系統は整備されているが、意思決定が不明瞭であり、指示命令が組織図の通りに動いていないと感じている。	・年度初めに意思決定機能、指示命令系統について全員で確認を行う。				
2-(3)		・各自が組織機能図を意識し、指示・報告ができる風土づくりから始める。				
2-(7)	・同じ業務を別の場所と重複して動いている印象がある。	・部署間にて役割や分担を整理し、各部署がどのような仕事を担当しているのか明確にしてはどうか。				
【特 記 事 項】						
2-(6)	・自己点検・評価、学校関係者評価結果をホームページに公開している。					

### 3. 教育活動

自己点検・評価【項目】	前回	【評 価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
3-(1) 学校の理念・育成人材像・教育目標に沿った教育課程(カリキュラム)が体系的に編成されているか	3.2	↘ 3.0	教育課程編成委員会	<p>評価 3.5</p> <p>・教職員の皆さんが学生の成長を考えて色々と工夫されていることは素晴らしいと思います。また、この評価委員のメンバーにOB・OGの方もいらっしゃるのので、その方々の意見はとても有用だと思います。</p> <p>・なかなか難しいことですが学ぶ楽しさを伝えられると良いと思います。</p> <p>・入学前課題に生理学も取り入れても良いかもしれません。</p> <p>・チュートリアル形式の学生主体の時間を取入れておられ良いと思います。</p>
3-(2) 学科の修業年限に対応した教育到達レベルを明確し、学習時間の確保はされているか	3.4	→ 3.4	教育課程編成委員会	
3-(3) 医療福祉分野の病院施設や団体との連携により、実践的な職業教育の視点にたった教育課程(カリキュラム)の編成・見直し等が行われているか	3.2	→ 3.2	教育課程編成委員会	
3-(4) 医療福祉分野の病院施設における実践的な職業教育(実習等)が教育課程(カリキュラム)において体系的に位置づけられているか	3.6	↘ 3.4	教育課程編成委員会	
3-(5) 実習や講義等を委託する場合、教育目標及び教育到達レベルを明確にしているか、情報共有を図っているか	—	3.3	教務委員会	
3-(6) 授業評価の実施体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	2.8	↗ 3.5	教育課程編成委員会	

3-(7)	授業評価結果に基づき、目標設定および授業改善が行われているか	—	2.7	教育課程編成委員会	・学校の色（例：スポーツ、障害者スポーツ）ダブルライセンス
3-(8)	外部（卒業生、保護者、医療福祉分野の病院施設や団体、地域社会等）からの評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか（アンケート、訪問・会議によるヒアリング等）	2.2	↗ 3.1	自己評価委員会	
3-(9)	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.5	↘ 3.4	教務委員会	
3-(10)	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	3.4	↗ 3.5	国家試験対策委員会	
3-(11)	学校の理念・育成人材像・教育目標の達成に向けて計画的に人材（専任教員・非常勤講師）を確保しているか	3.4	↘ 3.3	学 校	
3-(12)	医療福祉分野の病院施設や団体との連携において、要件を備えた人材（非常勤講師）を確保しているか	3.2	↗ 3.6	学 校	
3-(13)	教職員の専門的知識・技能等を修得・向上のための組織的な取り組み（講座・研修の受講、資格取得支援、各種学会・会議への参加等）はあるか	2.9	↘ 2.7	学 校	
3-(14)	教員の教授力（インストラクションスキル）を向上させる組織的な取り組み（講座・研修の受講、専門家による指導等）はあるか		↘ 2.3	学 校	

<b>【 課 題 】</b>	<b>【今後の改善方策】</b>
----------------	------------------

3-(2)	・教員の認識している教育到達レベルに違いがあると思う。
3-(3)	・今年から教育課程編成委員会を発足し本校の教育課程編や業界の情報、意見を伺う機会が設けられたが、今後の編成に活かすことが必要と思う。
3-(6) 3-(7)	・授業評価結果を担当教員（非常勤講師を含む）本人が確認しておらず、フィードバックが十分とは言えない。 ・授業評価結果の分析方法、教員へのフィードバック方法が確立していない。
3-(13) 3-(14)	・教員の人材育成に関する組織的な取り組み（人材育成計画の整備）は不十分であり、教員個々人の能力と意欲に委ねられている。 ・中長期的な人材育成計画を立てる。 ・教員研修はニーズに合ったテーマや内容を選択した上で、企画・実行する

<b>【特 記 事 項】</b>	
------------------	--

3-(3), (4), (8)	・今年度より教育課程編成委員会と自己評価委員会を開催して内外の意見を伺い、教育活動の向上を目指している。
-----------------	--

## 4. 学修成果

自己点検・評価【項目】		前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
4-(1)	就職率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.7	↗ 3.8	就職支援委員会	<b>評価 3.8</b> ・学生に対して入学前から解剖学について学習課題を与えたり、就職支援を1年からするなど教職員の皆さまの様々な対策が見て取れる。学生に学習習慣を根付かせるには高校卒業直後の1年時が大切な時期だと思うので、良い指導だと思います。 ・就職率100%と非常に高いレベルを維持できている。 ・4-(2) 国家試験対策は様々取組んでいるが、それでもまだ改善の余地があると前向きに捉えて、全員合格に向けて頑張ってもらいたい。 ・4-(4)石川県作業療法士会では論文支援などを行っている。他の大学でも卒業生への論文支援はあるが、金沢リハビリテーションアカデミーでの卒業教育は行っているのか。 ・4-(4) 病院、介護以外の分野で卒業生の就職後の状況を聞き取りやアンケートする。
4-(2)	資格取得率の目標値を設定し、具体的な対策を実施しているか	3.5	↗ 3.9	国家試験対策委員会	
4-(3)	退学率を把握し、その上で低減に向けた具体的な対策を実施しているか	3.1	↘ 2.8	教務委員会	
4-(4)	卒業生のキャリア形成(社会的な活躍や評価)を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか	※2.5	→ 2.5	教育課程編成委員会	
【課題】		【今後の改善方策】			
4-(3)	・成績が中間層の学生の指導が手薄になりがちであり、行動に特に問題のない学生の退学があり、退学率の把握、その対応策の検討が不十分だと思う。	・成績が中間層の学生からの働きかけが少ない場合に退学が多いので「伝える力」を育む講義も用いて状況把握を行う。 ・もっと学生と教員が向き合える時間を作る必要がある。			
4-(4)	・卒業生との関わりが少ないため実態を把握できていない。 ・卒業生の社会的な活躍や評価を、何をもって評価されていると判断するのか定まっておらず、個人の主観的な印象になっている。	・卒業生の就職後の状況を聞き取りやアンケートで接触機会を増やす。 ・どのような改善に活用するのか具体的な目標や目的を提示し、そのうえで卒業生と関わる機会を企画・実行する。 ・(卒業生の社会的な活躍や評価に対する) 本校独自の評価基準を作る			
4-(1)～(3)	・就職支援、国家試験対策、退学防止は実施しているが、具体的な対策について、全体で共有できていないと感じる。	・教育活動の内容を把握できるように一覧(就職・資格取得・退学に関する①目標値と目標設定の根拠 ②達成率並びに就職先や退学事由等の実績の詳細)を作成すればよいと思う。			

【特記事項】	
4-(1)	・国家試験合格率 100%の目標を設定し取り組んでいる。
4-(2)	・就職や資格取得については各委員を配置している。

## 5. 学生支援

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
5-(1) 学生の進路・就職に関する体制（運営組織、制度）は整備され、有効に機能しているか	3.7	↘ 3.6	就職支援委員会	<b>評価 3.0</b> ・実習時の細かいフォローをお願いしたい。（特に注意が必要な学生さんや病院に行く方に対して） ・今年の20周年を機会として、卒業生のフォロー（同窓会組織の強化など）があれば結果的に学生の支援にもなると思います。 ・学生指導・支援はかなり手厚く行われていると思います。
5-(2) 学生相談に関する体制（運営組織、面談記録、定期的な実施）は整備されているか	3.2	↗ 3.3	事務局	
5-(3) 学生の経済的支援に関する体制（奨学金制度、減免制度）は整備され、有効に機能しているか	3.0	↗ 3.2	事務局	
5-(4) 学生の健康管理に関する体制（運営組織、健康診断の実施）は整備され、有効に機能しているか	2.8	↗ 3.6	事務局	
5-(5) 学生主体の課外活動（学生会活動、ボランティア活動、クラブ活動等）を奨励・支援する体制はあるか	2.7	↗ 2.8	学生会支援委員会	
5-(6) 前項（課外活動支援に関する組織体制）は有効に機能しているか		→ 2.7	学生会支援委員会	
5-(7) 学校生活指導・勉学指導への支援は行われているか	2.9	↗ 3.4	教務委員会	
5-(8) 保護者へ学校情報の提供や面談を行い、適切に連携しているか（ホームページ、保護者報告会等）	3.4	↘ 3.2	教務委員会	
5-(9) 卒業生のフォローアップ体制はあるか（卒後研修、同窓会組織、1年後訪問、ホームページ等）	3.0	↘ 2.6	学 校	

【課題】	【今後の改善方策】
5-(3) ・学生と教員とのコミュニケーションが取れており細かな指導が出来ていると思うが、経済的支援に関してはもう少し支援体制を整備する必要がある。 ・独自の減免制度や奨学金制度がない。	・学生の経済的負担を減らすことを目的に独自の奨学金制度や家賃補助、学生寮、在校生の給付型支援制度や、入学時奨励制度を慎重に検討していく。
5-(4) ・学生の健康面についての支援体制の充実化。	・学校医の配置や定期的なメンタル面を含む健康管理など、支援体制の充実を検討する。
5-(5) ・学生会活動に対する支援は十分に実施できているが、ボランティアやクラブ活動はほぼ支援できていない。	・学生会が、地域と連携を深められるよう町内会への働きかけを支援する。
5-(8) ・行事の直前連絡が多いように感じる。大きな学校行事は予め年間もしくは半年分を伝えておくのが適切ではないか。	・保護者説明会以外にも、在学期間中の情報提供の頻度を増やす。 ・学業成績票の郵送時に、国家試験の結果や行事予定等の案内を同封する。

【特記事項】	
5-(1)	・就職に関して定期的に面談を行っている。
5-(7)	・長期休暇であっても学生が集まり教職員と勉強会を行っている。
5-(8)	・国家試験に向けて保護者に説明会を行っている。

## 6. 教育環境

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
6-(1) 学校施設・設備は定期的に管理・点検され教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.3	⚡ 3.1	備品管理委員会	<b>評価 3.0</b> ・無線LANの環境を整備し、iPadを利用した教育がよりできるようにしていただきたい。手技なども動画で配信し、学習し易いもの、覚え易いような工夫があればより良いと思います。 ・インターネットから資料を求めるのは今後も良いと思います。
6-(2) 教育上必要な図書が系統的に整備されているか	—	3.0	図書委員会	
6-(3) 実習施設や国内外の研修等は整備されているか	3.6	⚡ 3.3	学 校	
6-(4) 防災・安全対策（非常時の避難、誘導対策面、危機管理マニュアルの周知）は整備されているか	3.5	⚡ 3.1	事務局 （庶務課）	

【課題】	【今後の改善方策】
6-(1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設・設備及び図書の整備・定期点検は行われているが、経年劣化の設備がみられる</li> <li>・平成32年度の指定規則改正にむけた。新規備品整備が必要。</li> <li>・無線LANの環境がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備品管理委員と事務局が連携した上で、設備等の管理状況を共有し、常に設備点検や計画的な更新を実施し、メンテナンス及び新規購入を行う。</li> <li>・無線LAN環境について、ICT環境の導入も含めた、学生に対する活用法や有益か否か判断するための調査を行う。</li> </ul>
6-(2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャーナル以外の新書導入があまり活発ではない。</li> <li>・図書室内の本は全般的に古く、臨床実習や講義、国家試験において使える資料が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習、講義、国家試験に必要な新しい情報を取り入れるため、図書委員会は、在庫図書の整理と新図書の検討・購入を行う。</li> <li>・新書導入に対する明確な目標を設定（月何冊など）し実行する。</li> </ul>
6-(4) <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練を実施しているものの危機管理意識を高めるに至っていない。</li> <li>・最近頻発している水害の避難方法や雪害時の対応など、不十分な点がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（防災に関する）講師を呼んで勉強会を開催する。</li> <li>・危機管理、災害時対応マニュアルの作成、整備と訓練を定期的に行う。</li> </ul>

【特記事項】	
6-(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年4月 火災について消防訓練を実施している。</li> <li>・平成29年度は県民一斉防災訓練「シェイクアウトいしかわ」に参加し、地震に対する訓練を実施した。</li> </ul>

## 7. 学生の受入募集

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
7-(1) 学生の募集活動において、教育成果・実績等は正確に伝えられているか	3.8	⚡ 3.6	事務局 （入試課）	評価 3.5

7-(2)	入学志願者の問合せ・相談に対する体制が整備され、情報提供（育成人材像、資格、学費・教材費、選抜方法）は適正にされているか	3.7	↘	3.6	事務局 (入試課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動でYouTubeを活用することができればよいと思います。</li> <li>・他の大学等との学生の奪い合いがより本格化していくと思われるので、「良さ」をしっかりとPRすることは学生確保の上でもより大切になっていくと思います。</li> <li>・少子化を迎えるにあたりリハビリ職の魅力がアピールできると良いのですが。</li> </ul>
7-(3)	学納金は妥当なものとなっているか	3.2	↘	2.9	事務局 (入試課)	
7-(4)	入学辞退者の授業料に関して適正な扱いを行っているか	—		3.6	事務局 (入試課)	
7-(5)	入学予定者への入学前課題等の学習指導を実施しているか	—		3.7	入試委員会	
7-(6)	入学予定者に対してオリエンテーションを実施し、学校生活のための支援をしているか	—		3.6	入試委員会	
【課題】		【今後の改善方策】				
7-(3)	・在校生やオープンキャンパス参加者から、学納金について他校と比較した質問をされると、妥当性を説明することが難しい。	・近隣他校との学納金の詳細な中身の比較を行い、金額の妥当性について再検討もしくは延納・分納を検討する。				
7-(5)	・入学前課題が入学後の知識定着度や学力向上の有無、学習内容等の検証が不十分に感じる。	・更に詳細な検証を実施する。また入学前課題についてのアンケート（入学時・前期終了時）や入学後の小テストを行い、より具体的な検証を実施してはどうか。				
7-(6)	・新入生に対して行う入学前の支援内容（仮入学、学校生活ガイダンス、新入生オリエンテーション等）について情報の統一化が不十分と感じる。	・学校としての支援（誰が・何を・いつ・どのように説明するのか等）をまとめ、一覧表やガイドラインを作成し支援すべき内容を統一してはどうか。				
【特記事項】						
7-(1)	・少子化により学生確保が困難となっているが、正しい就職状況、国家資格取得率などの情報を伝えている。					

## 8. 財務

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】	
8-(1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.7	↗ 2.8	事務局 (経理課)	<b>評価 3.3</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務は学生数と直結するので、高校生へのPR活動と共に在学生の中で退学者が出ないようにしっかりとフォローを引き続き行っていただきたい。</li> <li>・情報がオープンになっていて良いと思います。</li> </ul>	
8-(2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか、また定期的に確認しているか	2.3	↗ 2.8	事務局 (経理課)		
8-(3) 財務について会計監査が適正に行われているか	3.1	↗ 3.3	事務局 (経理課)		
8-(4) 財務情報公開の体制を整備し、適正に運用しているか	2.1	↗ 3.3	事務局 (経理課)		
【課題】		【今後の改善方策】			
8-(1)	・18歳人口減に伴い将来の減収が想定されることに備え、先を見越した経営が必要であり、財務基盤が安定しているとは言いがたい。			・財務について常に精査し、先を見据えた財政基盤を構築していく。	

8-(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費の一部が、慣例化された状態で予算・収支計画に計上されているため、定期的な見直しが必要と感じる。</li> <li>・各委員会から提出される予算請求と実績の差異が大きい(予算請求が過少)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務担当者より各種委員会に対して、実績報告を行い予算作成・実行に対する理解を深め、実績に基づく予算請求をできるよう予算・収支計画の有効性を高める。</li> </ul>
8-(1)～(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校会計の知識がない教職員が財務諸表で財務状況を理解するのは困難であると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算後に財務状況を全教職員に対し、報告および説明する機会があるとよい。</li> </ul>
<b>【特記事項】</b>		
8-(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的では今後の学生充足率により変動するが、現状の財源状況は収支差額プラスでほぼ安定した状態。</li> </ul>	
8-(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度分よりホームページで財務情報を公開している。</li> </ul>	

## 9. 法令等の遵守

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
9-(1) 法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	3.5	↗ 3.6	事務局	<b>評価 3.6</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この学校関係者評価委員会もきちんと機能していると思います。</li> <li>・定期的に自己評価が行えていると思います。</li> </ul>
9-(2) 学生および職員の個人情報について閲覧権限等の設定がされ、個人情報保護の対策が講じられているか	3.2	→ 3.2	事務局 (庶務課)	
9-(3) 文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)、決裁規程(文書処理規程)、公印管理規程が文書化されているか	—	3.1	事務局 (庶務課)	
9-(4) 自己点検・評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	2.1	↗ 3.6	自己評価委員会	
9-(5) 自己点検・評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか		↗ 3.1	自己評価委員会	
9-(6) 自己点検・評価結果を公表しているか	1.6	↗ 3.6	自己評価委員会	
9-(7) 学校関係者評価の体制を整備し、定期的に評価を実施しているか	—	3.6	自己評価委員会	
9-(8) 学校関係者評価結果に基づき、目標設定および改善策に取り組んでいるか	—	3.2	自己評価委員会	
9-(9) 学校関係者評価結果を公表しているか	—	3.7	自己評価委員会	
<b>【課題】</b>		<b>【今後の改善方策】</b>		
9-(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の施錠管理について、未だ不完全な場所があると思う。</li> <li>・コンプライアンスに対する意識に個人差が生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して、講習等を受講し意識を高めていくことが必要だと思う。</li> </ul>		
9-(4)～(9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価、学校関係者評価は始動したものの、十分な展開が出来ているとは言い難く、改善方策が一部実施されていない印象を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価や自己点検・評価などの結果を把握し、継続して改善に取り組む。</li> </ul>		

【特記事項】	
9-(4) ～(9)	・平成29年度より委員会を立ち上げ、計画通りに学校評価を実施し、結果をホームページに公開している。

## 10. 社会貢献・地域貢献

自己点検・評価【項目】	前回	【評価】	担当委員会	学校関係者評価【評価・意見】
10-(1) 学校の教育資源や施設を提供し、社会貢献・地域貢献を行っているか	3.2	↘ 3.1	事務局	<b>評価 3.0</b> ・理学療法士・作業療法士の育成自体が地域貢献の一つと云えると思います。 志を持った学生の育成をお願いします。 ・社会貢献、地域貢献を今後も進めていただければ幸いです。
10-(2) 地域に対する生涯学習事業（公開講座、教職員の出張講座）の提供や教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を実施しているか	2.9	↘ 2.5	教員広報委員会	

【課題】	【今後の改善方策】
10-(1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会の会合などに施設を貸し出しているが活発とはいえない。</li> <li>・社会貢献・地域貢献は不十分だと感じる。学生のボランティア活動推奨と同様に、支援体制を整え、貢献度を高める必要性を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の周りの清掃など出来ることから地域貢献を行い、学校への理解を深めてもらう。</li> </ul>
10-(2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員個人が生涯学習事業を受託している実績はあるが、学校としての協力を積極的に行っているとは言えない。</li> <li>・本校主催で地域に対する講習会の開催や学習事業の提供はしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体等との交流を深め、ニーズに合った公開講座を企画・実施する。</li> <li>・情報発信（SNS等）の活用や、近隣住民への健康等をテーマとした公開講習、リハビリ予防講座などを開講する。</li> </ul>

【特記事項】	
10-(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石川県理学・作業療法士会の講習会の会場を提供している。</li> <li>・町内会議等の会場として施設提供を実施している。</li> </ul>
10-(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークの職業訓練の企業実習地として実習生を受け入れている。</li> </ul>

※ … 項目を統合したことによる平均値